

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 自分で自分をコントロールする力の重要性



これからの時代、これからの社会を生きる子どもたちにとって、「自分で自分のことを知る力」、そのうえで「自分で自分をコントロールする力」が、スポーツにおいても、学習面においても、生活面においても、とても重要になります。おとなが抽象的な言い方でお説教調に言っても、それはおしつけられたものにしかならず、自分の意志と行動を生み出すものにはなりづらいものです。

休み明けの回復状態を、自分で見えるように工夫をしたのが前項のグラフです。元にもどす期間は1週間とめやすをもたせることは必要で、子どもと確認しながら決めます。そして、日々声かけとチェック状況の確認も必要です。さらに、チーム全体の状況をみんなで共有することも重要で、メンバー全体の平均値は私の方で出して毎日提示しています。“自分（たち）で考え判断し行動する”力をつけるためのサポート（指導・支援）は当然必要です。前々から大会前の調整期間の2週間もこのような方法で、自分（たち）の状態を把握させて当日に向けて調整をさせていました。

スポーツに限らず、「指導者」と名のつく人のなかには、よく教えたがる人がいます。「教えてさせる」ことによって、一時的に力をつけ、結果を出すこともあります。それはやはり一時的なもので、子どもの将来に生きてはたらく力とはなりづらいことも往々にしてあります。それはある意味当然で、その結果を出した時には、その「指導者」がいたからで、その「指導者」から離れたら、自分ではどうしていいかわからないということになります。自分で考えること、自分で判断して行動することが習慣づけられていなければ、自分で歩いていくことができなくなり、つまづくことになります。さらに、つまづく経験もしていなければ、立ち上がる経験もしていないことになりますから、つまずいたときは大変です。「指導者」のところを「教師」「親」「おとな」と置き換えて読み直してみれば、かなり普遍的なことだと感じられるのではないかと思います。

見守り、励まし、応援してもらえるおとながいるうちに、子どもが子ども時代に身につけなければならない「学力」のなかに、このような力を根底に含ませ重要視していなければ、混とんとするこれから時代、変化し続けるこれからの時代、そのつど、自分で選択、判断、決定しなければならない時代、知的学力だけではもちません。こここのところつまずいてしまう若い人たちを見て、学校、クラブ等での子どもへのかかわり方（指導の在り方）を常に見直し続けています。

私がこのようなことを思うように至ったのも、かなりの時間と失敗を含めたこれまでのたくさんの経験によるものです。毎年毎年、いろいろな子どもとかかわらせてもらいながら、ふりかえりを重ねて現時点でここに至っています。

“自分（たち）で考え判断し行動する力”を育むことをずっと意識して指導を続けてきています。そのことが自分で自分をコントロールする力につながっています。活動再開時の子どもたちの姿と思いに、コロナ禍にあっても光を見出しています。